

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	修正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
627	2007/10/15	70627	サノフィバ スズー 第一三共 ワクチン	黄熱ワクチン	発育鶏胚	発育鶏卵	米国	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1348- 1353	2006年5月にインドネシアのスマトラ北部および2005年12月にトルコ東部の家族で観察されたトリインフルエンザH5N1の集団が、ヒト-ヒト伝播によるかを統計的方法を用いて調べた。スマトラの例ではヒト-ヒト伝播の統計学的エビデンスが見られ、概算された2次感染率は29%、局所的増殖数の下限値は1.14であった。トルコの例ではヒト-ヒト伝播のエビデンスは得られなかった。
628	2007/10/15	70628	扶桑薬品 工業	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	米国、カナダ、中国	有効成分	有	無	無	ボツリヌス中毒	Eurosurveillance 2006; 11(12): E061214	2006年7月3日、オーストリア北部の公衆衛生局は入院患者4名がボツリヌス中毒症の可能性があると報告を地方病院から受け、5番目の患者も他の病院に入院したため、アウトブレイクに関する調査を開始した。調査の結果、6月25日に行われたバーベキューパーティーと関連があった。全員が自家屠殺の豚肉を食べていた。マウス中和試験によって一部の患者では毒素の存在が確認されたが、患者の大便および冷凍保存されていた豚肉からはClostridium botulinumは検出できなかった。
												旋毛虫症	Infection 2007; 35: 89-93	2001年にスロバキア南西部で起こった旋毛虫症について疫学的調査を行ったところ、感染した豚肉や燻製豚肉製品の摂取に関連しており、4家族が感染していた。感染した肉を食べた23名中11名の血清中に抗trichinella抗体が検出され、6名が臨床症状を呈した。Multiplex PCR分析によって、ブタ肉から分離された寄生虫の幼虫は同国では稀にしか発生しないTrichinella spiralisと同定された。
												レンサ球菌感染	Jon J Infect Dis 2006; 59: 397-399	1994-2006年の日本におけるStreptococcus suis感染の7症例についてまとめた。全例がブタ暴露歴があり、うち5例は暴露時に手に傷があった。5例は髄膜炎症状、3例は敗血症症状を呈し、1例は突然死した。分離されたS. suisは全てLancefieldグループDおよび血清型2に属し、ペニシリンG、アンピシリン、セフトキシムおよびジブプロフロキサシンに感受性があった。しかし、6例はエリスロマイシンとクリンダマイシンに抵抗性を示し、4例はミノサイクリンにも抵抗性を示した。